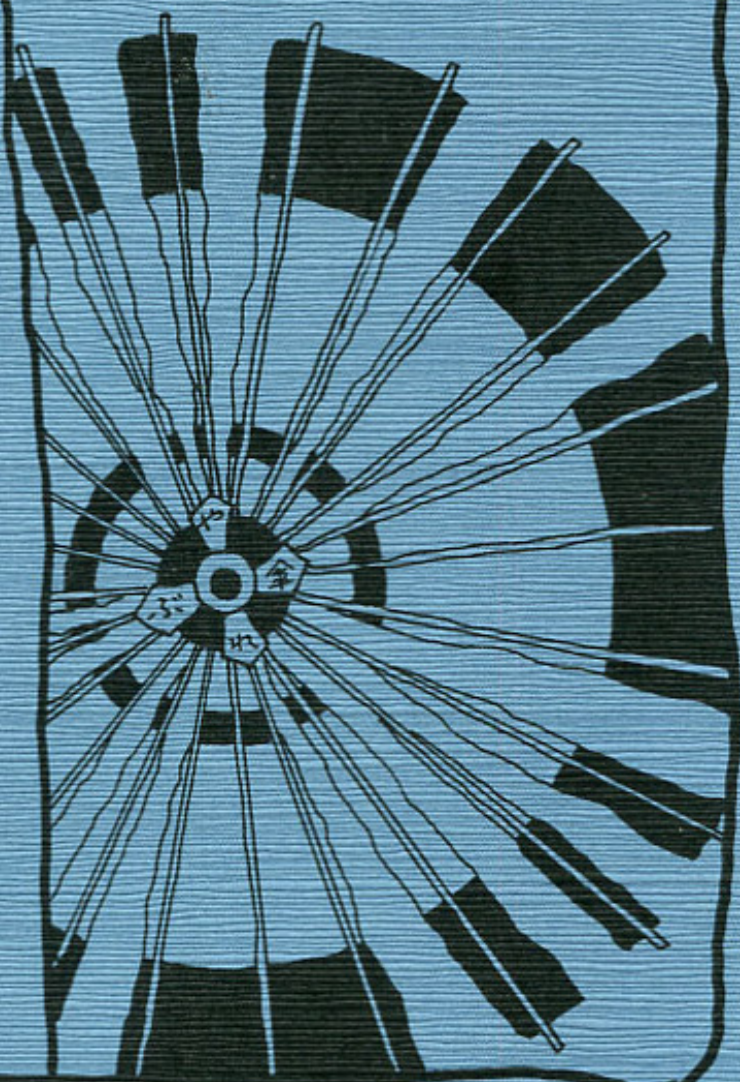


やぶれ傘



七十九号

二〇二四年八月



どこからとなく舟虫の散らばれる	根橋宏次
風なきにしもあらず胡麻咲きにけり	大島英昭
駄菓子屋の棚のでこぼこラムネ飲む	きくちきみえ
電柱に標す海抜草いきれ	丑久保勲
昼顔や「団結」の文字残る壁	瀬島洒望
梅雨空を嘯むかに河馬の口開く	安藤久美子
どんと波来て船虫の消えにけり	廣瀬雅男
夏蓬待ちたる雨の来たりけり	白石正躬
乾きたる土に足跡芥子の花	藤井美晴
二度三度日傘同士が頭下げ	久世孝雄
走り梅雨海の匂ひの雨が降る	國保八江
向日葵や河川の護岸工事音	渡邊孝彦
マスクメロンやもめの義弟より届く	有賀昌子
風見鶏ピクリともせぬ暑さかな	松村光典
石なげて月のみちんや梅雨の池	忽那みさ子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

選 夫 紀 崎 大

チューニング合はぬラジオや明け易し	小山陽子
ただ一花なれど我が物わが皐月	武田紀久
イーゼルの置かれてゐたる夏木立	時田義勝
暗闇に一筆書きの蛍かな	野口朝世
青胡桃ここより沢の出入口	萩原溪人
窓ガラス影絵のときき守宮かな	濱野新
蜘蛛の囲の雨の湿りに歪みをり	広瀬 濟
炎昼を亀の横切る一車線	青谷小枝
水まきのホースのねぢれ庭石菖	天野美登里
五月雨や重き音する大時計	安斎正蔵
牛の尾がゆるりと払ふ尻の蠅	石原健二
明易し軒にばさりと大鴉	岩藤礼子
目を凝らしめだかの稚魚を数へけり	枝 みや子
虹色の木を描く子ども夏の昼	岡田香緒里
守宮みて窓辺の灯消しがたく	奥田温子

夕 風

大崎 紀夫

庄内の田水あかるしねぶの花  
乾びたる蚯蚓を数へつつ駅へ  
夕風の電柱に鳶とまりけり  
干草を踏んで道までもどりけり  
夏萩のそばを豆腐屋よりの水

花かぼちや一寸厚の土留め板  
火取虫よりやや離れ綿あめ屋  
川蟹の鋏が少し水を出て  
夏の月へと亀の首のびにけり  
ひまはりも正午の空もうごかざる  
空蟬をつぶせば脚ののこりけり  
角曲がるとき底紅の裏を見て

舟 虫

根岸宏次

青 盧 の 中 に ぽ つ か り 舟 溜 り  
つ ぎ は ぎ の 道 の 継 ぎ 目 に 滑 覓  
谷 挟 む 二 手 よ り 時 鳥 か な  
角 張 れ る 机 布 の か ば ん 雲 の 峰  
ま ん 丸 と い へ ぬ 茅 の 輪 を く ぐ り け り  
箱 眼 鏡 苔 を は な る る 苔 の 泡  
ど こ か ら と な く 舟 虫 の 散 ら ば れ る  
バ ー ボ ン の か ち わ り 指 で ま は し け り  
番 台 に 浮 人 形 の 忘 れ 物  
前 の め り し て 立 食 ひ の 心 太

やいと花

大島英昭

測量のひと坂にゐて梅雨晴間  
荒梅雨の午後の薄日となりにけり  
花ざくろ敷石ぬるるほどの雨  
花合歡の地にたひらかに轆かれをり  
夏草の中におかれてゐるベンチ  
リサイクルシヨップ閑散油照り  
牛蛙鳴く道を行き帰りけり  
風なきにしもあらず胡麻咲きにけり  
やいと花ひつきりなしに雲湧いて  
Tシャツの庭に干されてプチトマト

ラムネ

きくちきみえ

蠅虎の夕餉の席に現はるる  
掬はれて匙をはみ出す西瓜かな  
梅雨空の平ら家並みのほぼ平ら  
裾絡めつつ四万六千日ぬける  
ところてん器を近く食べにけり  
夕立の来さうでついに来たりけり  
スナップを効かせ打ち水してゐたり  
乾びたる蚯蚓に潮の匂ひかな  
かき氷味見しあうて崩れけり  
駄菓子屋の棚のでこぼこラムネ飲む

郭 公

丑久保勲

ジエラートのコーンカップを齧る音  
貨車止まる音うつりゆく薄暑かな  
郭公は隣りの寺へ移りけり  
県庁へすこし登りや夏燕  
日雷定規を当てて紙を切る  
夾竹桃どうといふことなき小道  
国府津駅より眺めたる雲の峰  
いつもある三角定規麦茶飲む  
電灯の紐揺れてゐる水羊羹  
電柱に標す海拔草いきれ



昼顔

瀬島洒望

土産屋の上は食堂風薫る  
枇杷みのある空手道場傍らに  
麦は穂に頭の上を飛行船  
浜木綿や山積みされし古タイヤ  
日照雨止み暑さいやます東口  
明け易のこむらがへりに飛び起きる  
木漏れ日や仏足石を歩く蟻  
昼顔や「団結」の文字残る壁  
ゆつくりと地に着きにけり夏落葉  
夏座敷どうぞお平にと云はれ

河馬

安藤久美子

アマリリス風が帽子を飛ばす午後  
中ほどをかりりと噛めば胡瓜の香  
昼顔の真昼磧へ石の坂  
白昼へ退院の日のサングラス  
卓上に豹の模様にバナナ熟れ  
アガパンサス救急車来て止まりけり  
ででむしや短兵急に降り出して  
青芝を一直線にあの木まで  
滑莧川面てらてら日を返す  
梅雨空を噛むかに河馬の口開く

蟬 穴

廣瀬雅男

朽ちかけし岸辺の杭や杜若  
軽鼻の子の水脈に付き来る鯉の口  
ひとの背に付きて茅の輪を廻りけり  
お社にひと坪ほどの青田かな  
木の下に涼めば雀寄り来る  
浜木綿や岸を離るる漁り舟  
どんと波来て船虫の消えにけり  
足もとに蟬の穴ある雨宿り  
大屋根に鳩鳴くこゑや蓮の花  
夏萩の枝先揺るる程の風

## ◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	3日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	市民会館うらわ	丑久保勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市見沼	丑久保勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

10月3日のなごみ会は市民会館うらわ505集会室。

10月19日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地はさいたま市見沼。句会場は市民会館うらわ605集会室。

◎ 連絡先

瀬島孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ